

人のために尽くす心

～ 連綿と重なる「思いのつながり」～

統括校長 所 水奈

風光る五月。みずみずしい若葉が鮮やかな季節となりました。例年よりも早い初夏を感じる陽気の中、子どもたちは元気いっぱい休みの時間の外遊びを楽しんでいます。一方、体は未だに暑さに慣れていない状況です。学校では、「暑熱順化」に十分留意して、日々の教育活動を安全に進めてまいります。

さて、新たな学年となって早1か月が過ぎました。子どもたちはこの節目を契機として、何事にも張り切って取り組んでいます。すすんで発言をしたり、粘り強く問題の解き方を考えたり、友達に優しく声を掛けたり…などと、生き生きと輝く姿がどの学年の子どもたちにも見られます。

特に、6年生は最高学年としての活躍が目覚ましく、「6年生のおかげで一小は成り立っている」と言っても過言ではない働きぶりです。登校してきた



【朝の教室：1年生のお世話をする6年生】

1年生の朝の支度を手伝ったり、戸惑っている1年生に視線を合わせて優しく声を掛けたりと、

見ている私の心が温かくなるくらい、優しさに溢れていました。また、先月の保護者会の会場（体育館）の椅子を並べるなどの準備をしたのも6年生です。周りや先を見通して自ら動く姿は、「さすが!」としか言いようがなく、清々しさも感じました。

なお、先述の1年生に対する思いや関わりは、他の学年も同じです。「1年生を迎える会」では、どの学年も一小のよさや「ステキ」を伝え、1年生が楽しめるように「何を紹介しようか?」「紹介するやり方はどうしようか?」と熱心に話し合っていました。

きっと自分たちが1年生の時に、当時の6年生からしてもらったことへの嬉しさや感謝の気持ちが、今の1年生への思いにつながっているのだと思います。

毎年繰り返されるこの「思いのつながり」が、連綿と受け継がれ、本校の校風の1つとも言える「上級生が下級生を思う心」「人のために尽くす心」となって表れているのだと実感しているところです。



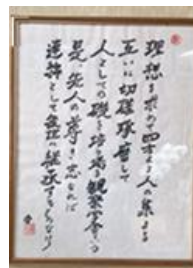
【1年生を迎える会での様子】

「観聚学舎」の名を冠する本校は、狛江の教育発祥の学校であり、私塾から公立学校へと移行していった経緯に鑑みると、先人の方々の「より多くの子どもたちに教育を開く」「子どもたちのために尽くす心」から生まれた学校であることが伺えます。このことから、本校の「人のために尽くす」校風は、154年前の時代から引き継がれたものであると思えてなりません。

一方、「観聚学舎」の「観聚」を一字ずつ紐解きますと、「観」:物事の本質を見極めようと詳しく「観る」こと「聚」:人や物が集まること、人々が集まって交流することまさに教育発祥の学び舎に相応しい名前です。

校風を継承するとともに、この名前に応じた教育を展開することこそが本校の使命と言えます。

今月から、様々な行事が実施されます。引き続き、本校への御支援と御協力をお願いいたします。



【観聚学舎の由来が分かる書】(校長室)

理想を求めて四方より人の集まる
互いに切磋琢磨して
人としての礎を培う場を観聚学舎という
是、先人の尊き志なれば
連綿として後世に継承しりものなり



狛江市教育委員会

「コミュニティ・スクール通信」

5月生活目標 『時間を守ろう』

時間を守ることは、大人にとっても子どもにとっても大切なことです。時間を守ることは、相手を大切にすることの表れでもあります。遅れてしまうと時として全体に影響を与えてしまうこともあります。そのためには、時間の見通しをもち、先に準備をすることがポイントです。全員が時間を守って気持ちよく生活することができるよう指導をしていきます。家庭でも、時間を守って登校できるよう、朝の送り出しに御協力をお願いします。